

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

さんさん広場

第 130 号

《編集・発行》

瀬戸内市民病院広報委員会
瀬戸内市邑久町山田庄 845-1
TEL (0869) 22-1234
FAX (0869) 22-3296
URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



《理念》 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。



「辰年と亀」 天高く上る竜に守られる辰年。「強運」や「お金に困らない」と言われています。また、「鶴は千年、亀は万年」と言われるように、亀は長寿を象徴する縁起の良い生き物であると考えられてきました。古代中国には龍と亀、双方のご利益を持つ龍亀（ロングイ）という頭が龍で体が亀という聖獣もいます。これまでの努力が実を結ぶ年となるでしょう。（写真は牛窓中学校の生徒が作った亀のストラップ）

目次

□ 写真 「辰年と亀」	…1	□ 牛窓中学校から亀のストラップ寄贈	…6
□ 新春のご挨拶（病院事業管理者）	…2	□ スマートフォンアプリによる医療連携	…7
□ 新春のご挨拶（病院長）	…2・3	□ を開始しました	
□ 新春のご挨拶（病院事業部長）	…3	□ 火災発生時の 3 原則をご存知ですか？	…7
□ 新春のご挨拶（看護局長）	…3・4	□ 職員紹介コーナー『庭』	…8
□ 新春のご挨拶（事務局長）	…4	□ 理念・基本方針	…8
□ 腹腔鏡下手術器導入しました	…4	□ 編集委員のちょっと一服～オリーブの木の下で～	…8
□ 令和 6 年新春書初め展開催しました	…5		

新春のご挨拶



病院事業管理者 竹内龍三

能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日でも早く、もとの平穏な暮らしに戻れますようお願い申し上げます。

「新年の挨拶」

明けましておめでとうございます。

瀬戸内市民病院も地方公営企業法が適応され、新しい病院が建設されて7年以上が経過しました。この間、病院職員の入れ替わりをはじめ、院内制度の改善が多々なされてきました。特に4年前に発生した新型コロナウイルスのパンデミックな流行に対し、感染症への対

策に大きな改善がなされるとともに、職員皆さんの協力もあって患者さんの治療に関して大過なく経過していることには感謝いたしております。しかしながら今年4月からは診療報酬の改定や医療従事者の働き方改革など様々な問題が目白押しです。そんな中であって、瀬戸内市民病院の今年度の1つの大きな目標として、昨年からは始まった訪問看護に加えて、訪問診療・訪問リハビリに目を向けたいと考えています。というのも瀬戸内市内の高齢化は県北ほどではないですが徐々に進んでおり、高齢独居者や老々介護生活者が増す中、通院にも支障をきたす患者さんや病に倒れても自宅生活を望まれる方が増えてきていることを考えれば、病院側から患者さんの方に出

向くことが今以上に必要となってくるものが十分に考えられます。10年先の瀬戸内市の医療状況や瀬戸内市唯一の一般病院としての使命を考えると、介護施設や自宅生活者との連携は必須のものであります。

また厚生労働省の今後の救急医療計画の中で、救急搬送において「下り搬送」という言葉が生まれて、2次救急医療機関の役割が今まで以上に望まれてきていてその役割には大きなものがあります。高度医療が必要な患者さんについては基幹病院に任せ、高齢者の3大疾患である「誤嚥性肺炎・慢性心不全・大腿骨骨折」や発熱治療などに対しては、介護施設や診療所などとの協力病院として連携体制の構築が近い将来義務化されることになっていきます。また同時に一般救急病院として、昨年11月から始まったスマホアプリ「NOBORI（ノボリ）」の導入により、県内における岡山大学病院（現在は他に旭東病院と岡山中央病院）との患者情報の共有化が図られ、大学病院での診療の負担軽減化と迅速化を目的として、当院でも同じような医療提供ができることを目指しています。



病院長 横山伸二

「年頭所感」

新年明けましておめでとうございます。

2019年から世界規模で蔓延した新型コロナウイルスエンザ感染症もワクチンや抗ウイルス薬の開発、また、概ね集団免疫の獲得により消退傾向となりつつ、従来の季節性インフルエンザと同じような流行り病の様相を呈しています。このような状態のなか、今年こそ国民みんなにとつて明るい年であつて欲しいと切望するところです。

十千十二支では今年甲辰（きのえたつ）に当たります。

新春のご挨拶

甲は干支（えと）の始まりにあたり、生命や物事の始まりを、また、辰は草木が伸長、形が整い活気に溢れることを意味するそうです。言うなれば今年は天高く上る竜に守られる年です。

自粛々に明け暮れた数年来の暗い日本を救ってくれるよい年になることを予感させます。とは言え、医療においては来年より始まる地域医療構想に基づく厳しい医療再編の動きの中で、瀬戸内市立病院も生き残りを賭け十分な準備をしなければならぬ年でもあります。瀬戸内市は県南東に位置していますが、近隣自治体においても医療施設の閉院が続く、現実には東備地区は医療過疎に近い状態です。かかる状況にあつて当院は地域医療を担う必要不可欠な病院でなければなりません。高齢者の増加に伴い、医療福祉費は限りなく増え続け、すでに昨年の医療福祉関

連国家予算は46兆円を超えました。少子高齢化により国力が急速に低下するなかでは医療を取り巻く環境は一層厳しくなることが、予想されます。その中にあつて当院は身の丈に応じつつも必要な設備投資や施設の整備、人材確保、医療の質の向上を図りながら、精一杯取り組みが必要があります。そのためには皆様の協力や支えが不可欠です。何卒、今年もご鞭撻のほどお願い申し上げます。



「新年のご挨拶」

病院事業部長 上井 勉

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症への対策も変更となり、社会経済活動もコロナ前に戻りつつあります。一方で、インフルエンザ等の感染症が増加しています。そうした中、日々病院機能を守るべく職員一同、対応に当たつてい

るところです。昨年、病院を取り巻く環境は大きく変化しました。4月に新たに岡凌也先生を迎え、10月には水野先生を迎え、若い医師が意欲的に診察を行っています。また、医療情報システムを更新し、外来診察は、画面での番号呼び出しに変更しています。また、岡山大学病院との情報連携も開始し、アプリで情報を共有し、患者様を地域で継続して診察する取り組みを始めています。そして、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」による病院経営強化プランの策定をしました。

今年、強化プランの実施を始める年となります。当院の理念である「市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。」を今後も持続できるように、さらなる努力を重ねてまいりますので、よろしくお願いいたします。

今年が皆様にとって、たくさんのお慶びが続く昇龍の1年となりますよう願っております。



「新年のご挨拶」

看護局長 天野芳子

あけましておめでとうございます。昨年新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行され、感染対策がずいぶん緩和されたとはいえ、インフルエンザが流行するなど医療機関としては、まだまだ気の抜けない状況が続いています。病院を取り巻く環境も厳しく、人口の減少、高齢化が進む中2040年を目標に国の政策が考えられており、高度医療では病院の統合・再編も視野に入れた県レベルでの対策が求められています。また、今年度は診療報酬のトリプル改定（医療・介護・福祉）が行われます。同時に医療従事者（特に医師）の働き方改革、医療DX等も推進していかなければならず、病院経営の難しさを痛感させられる次第です。

瀬戸内市も人口減少と高齢化が進み、自宅での生活が困難な方や不安をかかえておられる方が多いと思えます。その不安を少しでも解消できるように、今年度の目標として「訪問看護ステーションとの連携、退院支援の充実」を掲げ、市民の方に必要とされる病院を目指して頑張りたいと思っています。

今年が皆様にとって良い一年になるよう心から願っています。

本年もよろしくお願い致します



事務局長 野口一成

「令和6年を迎えて」

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類相当へとかわり、テレビ等マスコミでの報道があまりされなくなつたように感じます。ただ、コロナウイルスは、なくなったわけではなく、弱毒化したに過ぎず、今なお、当院では感染対策をしっかり行い診療を続けているところです。

さて、新病院を建設し診療を開始して令和6年で8年目を迎えております。新病院となつてからこれまで、市民から信頼される病院を目指し、救急患者の受入やコロナといった新興感染症患者の受入治療に率先して当たってきました。しかし、依然として、医師・看護師等の不足、人口減少や少子高齢化の急速な進展に伴う医療需要の変化、新興感染症の感染拡大といった経営環境の急激な変化等を背景とする厳しい環境が続く中、今後も収入の確保は厳しくなり、人件費や経費などの費用は増加することから、

経営改善の取組を確実に実行し、経営の安定化を図ることが大きな課題となつていきます。そのため本年度、当院が地域において果たすべき役割・機能を発揮し続けるために必要な取り組みを定めた「病院経営強化プラン」を策定しました。

令和6年度からは、このプランに沿って、市民の皆様が住み慣れた地域で永く健康に暮らせるような在宅療養への橋渡しについても、地域医療連携室や訪問看護ステーションの充実などを通して取り組んでいきたいと考えています。昨今の物価高騰の波で、病院経営も予断を許さない状況下であり、大きな投資を控えるなければなりません。市民の皆様へは、必要な医療を提供できるよう、職員とともに頑張っていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。

腹腔鏡下手術器を導入しました

昨年12月に新たな医療機器として、腹腔鏡下手術器を導入しました。

これにより、これまで開腹して行っていた胆管、消化管（胃・大腸など）などの手術が、患者さんの負担の少ない腹腔鏡で行うことができます。開腹手術と比較して、傷跡が小さい、術後の痛みが少ない、回復が早く早期退院が可能といったことが期待できます。（院長コメント）

これからは市民病院でも腹腔鏡を使用した手術ができます。お腹の中をモニターに映し出し、小さな傷で開腹術と同じ手術を行います。胆嚢炎、胆石症、そけいヘルニア、虫垂炎などは特に良い適応です。術後、翌日〜数日で退院可能です。出血も少なく、低侵襲であるため、超高齢者にも適応が広がります。ぜひ、ご相談ください。



レクリエーション委員会主催

令和 6 年新春書初め展を開催しました



令和六年新春にレクリエーション委員会主催の書き初め展を開催しました。このイベントはコロナ禍で職員親睦がなかなか出来ない中で、レク委員会が知恵を絞って生まれた企画です。第2回目となる今年は、当院の職員50名から100点もの書き初め作品の応募がありました。

今年も、即席ギャラリーに転用した職員通用口付近の廊下に全作品を掲示しました。掲示期間は1月15日(月)～26日(金)までの12日間とし、期間の前半は各作品の鑑賞。後半は職員による投票を実施し、集計と開票。全作品の中から特選1名・金賞3名・銀賞3名・入選8名を決定しました。今回は準特選に相当する病院事業管理者賞1名・院長賞1名・看護局長賞1名も設けました。

書き初めは、平安時代の新年宮中行事にルーツを持ち、江戸時代になって寺子屋を中心に庶民に広がった日本の文化です。現代はスマートフォンやパソコンでの入力が増え、文字を書くことが少なくなりましたが、人の書いた文字が持つ魅力やパワーを再発見することができました。また作品に表した新年の抱負や目標が話題となり普段、話す機会がありません。また他部署の職員とも交流が図れたのが本当は楽しかったです。今後もこのようなイベントを企画し、仕事だけでなく職場の楽しさを提案していきたいと思っています。

(レク委員長(診療放射線技師)赤木耕平)

牛窓中学校から亀のストラップ寄贈



瀬戸内市民病院の患者さんの長寿と健康回復を願って、今年も私たち保健委員会は、美術同好会や有志の人と一緒にカメのストラップを作りました。作った人の中には、「手先が器用じゃなくて上手く作れるか不安だけど、患者さんに少しでも元気になるってほしいから頑張る」と言って参加する人もいました。そして、みんなで協力して、完成することができました。このカメのストラップを通じて私たちの気持ちが伝わったり良いなと思います。直接お会いすることができないのは残念ですが、私たちは患者さんが毎日健康に過ごせることを願っています。まだまだ寒い日が続くと思いますが、職員のみならず、お体に気をつけて、お仕事頑張ってください。私たち保健委員会も活動目標の「みんなが笑顔で健康に過ごせる学校にしよう」を達成するため日々頑張っていきたいと思えます。

牛窓中学校 保健委員長 杉本 紗季

牛窓中学校では保健委員会の呼びかけで集まった1年生から3年生の生徒さんによって放課後、教室で瀬戸内市民病院の入院患者さんへ贈る「亀ストラップ」(表紙写真)作りが行われました。亀は鶴と共に長寿を象徴する吉祥の動物とされ、縁起が良い生き物と言われています。「亀ストラップ」は、入院生活に潤いを与え、患者さんの一日も早い回復と退院ができるよう気持ちを込めて一つ一つ丁寧に手作りされています。

元々、旧牛窓町立病院の頃から慰問を行っており、病棟で合唱を披露し、メッセージカードや写真アルバムをプレゼントしていましたが、コロナ禍で面会ができなくなりました。「厳しい状況だからこそ元気を出して欲しい。永く続けてきたこの取り組みを終わらせてはならない。」との思いから、3年生が1年生に作り方を教えながら今年も心のこもった手作り亀ストラップが出来上がりました。亀ストラップをいただいた患者さんからは、「まあ、かわいい。」「みんな綺麗にできていて、どれにしようかな。」「こんなに上手によく作ったわねえ。」と感謝と感激の声が聞かれました。生徒の皆さんの願いと励ましがしっかりと届いていました。牛窓中学校の皆さん、本当にありがとうございました。

スマートフォンアプリによる医療連携を開始しました



(左から前田嘉信岡山大学病院長、那須保友岡山大学長、武久顕也瀬戸内市長、竹内龍三瀬戸内市病院事業管理者)

市民病院は、岡山大学病院との間で患者さんの診療情報を共有するアプリ「NOBORI（ノボリ）」による連携を始めたことを、令和5年12月21日、岡山大学で記者発表しました。これからは、連携医療機関から提供された画像や検査結果、薬などの医療情報をスマートフォンで、いつでも見ることが出来ます。（※条件があります。詳細はお問い合わせください）

ご自身の健康状態の管理だけでなく、ご家族への情報共有、または救急時や災害時・旅行・転居等により、他の医療機関で診療を受ける場合にも、より継続性のある医療サービスを受けることができます。

ご希望の方は診察券および個人を証明できる書類（運転免許証やマイナンバーカードなど）をお持ちになり、平日（祝日を除く）の午前8時30分から午後5時までに受付窓口までお越しください。アプリのインストール支援・連携作業を行わせていただきます。（事務局 正岡彰朝）

火災発生時の3原則をご存知ですか？

-1月26日に消防訓練を実施しました-



不特定多数の人々が入り出る病院は、消火・避難訓練の実施が義務付けられています。また、火災発生時には「早く知らせる」「早く消す」「早く逃げる」の3つが、火災初期の大事な対応となっています。

当院では、1月26日に119番通報と館内放送設備による「通報訓練」、消火器や消火栓を使用する「消火訓練」、避難誘導に従って屋外へ非難する「避難訓練」を同時に実施しました。病院では自力で避難することが困難な患者さんが入院されているため、火災発生時に各職員がどのように避難誘導するか、また防火設備についての知識や消火器の使い方など冷静且つ迅速に行動するための訓練が必要です。

特に避難誘導では、歩行可能・車椅子・全面介助が必要な患者を想定し、避難者数の把握や、避難経路の確保を行いました。瀬戸内消防署の隊員の方々に訓練についての講評と水消火器を使った初期消火の仕方をご指導いただきました。

こうした訓練を繰り返し行う中で、万が一火災が発生した時の病院的「安全と安心」を守ることができるよう職員一同、日々精進して参ります。

職員紹介「庭」
コーナー



臨床検査技師 田村 美紀
たむら みき

市民の皆様、こんにちは。検査科、臨床検査技師の田村美紀です。私は2004年から約20年お世話になっています。周りからみれば、ベテランと言われる域に達していますが、まだまだ日々学ぶことも多いと感じています。私の座右の銘に『変えるにはリスクが伴う。変えなければもっと大きなリスクが伴う。』があります。人生1度きり、やらずに悔やむよりは、失敗しながら様々なものを得たいと思っています。

私は、小・中学校とバレーボールをしていました。その縁あってか、現在院内のバレーボール部のキャプテンをさせて頂いています。今の目標は、県大会に優勝し、優勝カップを奪還することです。なかなか仕事終わりの練習は大変ですが、目標達成のため頑張ろうと思っています。また、練習を通じ他部署のスタッフとの交流も深め、働きやすい職場を今後も目指したいと思います。

＜理念＞

市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。

＜基本方針＞

1. 地域で必要とされる医療を安全・安心に提供します。
2. 人を大切にし、患者さまの尊厳と権利を尊重します。
3. 医療・介護・保健・福祉施設等と連携し、市民とともに地域包括医療・ケアを進めます。
4. 常に自己研鑽に励み、医療の質向上に努めます。
5. 市民に必要とされる医療人を育成します。
6. 健全な経営基盤を確立します。
7. 楽しく働き甲斐のある職場をつくります。

編集委員の

ちよっと一服



～オリーブの木の下で～

四半世紀前、「半ドン」という言葉があった。「半」は「半分」の意味。「ドン」は「ドンタク」の略である。「ドンタク」はオランダ語で休日を意味し、「博多どんたく」の由来でもある。土曜日は半日が休みなので半分のドンタクで「半ドン」と呼ばれていた。週休二日制が定着した頃、翌日が休日である金曜日のことを「花の金曜日」、略して「花金」と言った。さらに月末の金曜日に午後3時終業するプレミアムフライデーの導入が呼びかけられたが記憶に遠い。働き方改革の現在、半ドンの午後の例えようなない開放感と晴れ渡った青空が不思議と思い出される。